人だが、職等の背「協食等員務合は十二日ロンドンで「大食不参加を決論した、此決議採「を始め他の階関も悉」

「ロンドン十二日间盟」英國領官開かれたが、奈安一致を以て東京機に借り、

大會に不參加

画家の一部は我が海軍のの職と協

**於源県内臣民へ互ニ信要協力シ以子開特** 

獨立尊重宣言か

ヒ總統、シュ首相と重要會談

規定機道の我能的面に約八百の

戦歌であげた。さた十二 機動三時間の後職を職り機動三時間の後職を職り機動三時間の後職を職り機関を制めていませんで、

於て魏敵精禁中の倉林郎三日可見」十二日朝見聞

敵を殲滅

「治理研二十円を有する

で之も難逃した。敵の遺迹難し來つたが、交戦二

黄島占領

一、獨逸は塊火利におけるナチス活動を一切停止し、且つ來る二十日の國會演說で、ヒツ トラー總統は墺太利の獨立、主権に正を宣言する

発失敗し、アイ

上[四回到] 新光型

が長隊部六名せ旋凱に都市近長 歌實きし々生る語 験性

牧野大佐

步調

間の提音をなしたといばれる、

那祭用具、図部祭共用の版

英國で横軍を押

南總軍團を新設

央軍の機械化を急ぐ

總司令に余漢謀を任命す

け、此村の自治的向上 自助共職の轉換別を連 は土一年度で発し

が開発を

野府では、精神的指揮

呼から始めた第一

金部

反日大會に

世、成は機器増別の配 1大助の物神を助せ とになり、中島の英

受け、『新しき村々が各世一個的格室百川経 め、三種間の細切金 ことになった

日氣配(世)

ンドンナニ百回恩・蘇茶南大 独場下費成に頭瓜ぎも 地場下費成に頭瓜ぎも も何は別種言題らずな新材料待ちに人気更に

要、大財が語るその日本的でリポースと、 対象のエリボッの新銀機 がいていまの新銀機 がいていました。 一角のでは、 一角のでする。 一句のでする。 一句ので。 一句ので 一句ので。 一句ので。 一句ので。 一。

廟の指揮に當る筈。なほ余淡謀は中央の命により た、依つて余漢謀は曲江に絶司令部を設け、 取事絶量関を新設し、その絶司令に余淡謀を命じ を脱命してゐたが、今回その强化を問るため湖南 とを豫想し第四路軍總司令分漢謀に對し南支死守

中央軍の機械化を急いでゐる

大、OO▲東新一大九。 「離初二八四。二〇▲流衆 七〇

図民物辞機動り飛躍週間を選 地支黄

は那質上日本に生耳られ Ē 保における五国の活躍 き京軍活躍の大製を 時局認識に心気一新の

数十の萬國聯軍大部隊は十二日夜

「宣清戦十三日同盟」森田。迫山「却せんとしたが前面に待ち構へて」を選集して、一部に北へ一部

**あた石黒部隊に側面を衝かれて周 | 村穂方面に近げ萬藤崎** 

- 三日午向七。頃より迫 | 南浦に難するに至った

錢塘江岸を猛撃

具得像十二日同盟 改成する前

日夕刊四頁

坂西部隊

萬稲麟軍主力潰滅

側面を衝かれ

ら者の大量推奨。 柳々館 赤城監長

戰捷奉祝渡 世界に立る動れた 六十銭~新 京戦。 興味部へのカラーセクション以前、高雄、 古歌を始め手島福明か 潮 酣 行發

冬よサヨー

ナラ

十一日の鉱内祭賞日の人田を利用

昌度苑には子供連れの散步群

街にも春の足音響く

七百六十七萬圓を審議する

全南道會十六日招集

本精神のタクトぶり

先生は京城出身の山口少尉

医囊技師 石垣千代三

と給料を献納 戦歿勇士の忠魂碑建設費にご

金寬斗君の赤誠

京城以外の主要都市に代理店を募集す

本自動車株式會社京城出張所

テキ、ワ

ス、カ、ウ

第四二一號資金四

4

野は大好野でナノ 野は大好野でナノ が、よる完全再生 野はカリスと木製長

T. F. F.

#

F

身埠

東京 申うシキック式 高級冷凍機發賣元

口典で春香傳』を 新協劇團で公演

+

第三〇一號資金二五四也









けらしたもので、快よい芳香を有しますらい情報防臭が増えいませんある粉末とつしい情報防臭がある粉末とつしい情報が見まる。 ・イツの風者キューン氏の研究になる新



責任威に威激











マッダロ空管四珠マッダロ空管四珠でも精敏器/

月世



有酸 姉 會



(全臓の文具店にあり)

「社会式株造製キンイ崎鎬 哲本

2 オンスス 医 概 30 セン

結核

依 ラ 記 總 全 り イ 娘 で も !!! に

しえきからかへる(たてよど

あちらこちらで 『ば (一日) お床には入った選 \*

名古岳外上村の脚味料

なる日上れり

爺 花泡

人大きな上野の動物関が出来たの 大きな上野の動物関が出来たの

一般 銀塚勘一

伊藤加壽人





**建一个工作,** 

渡開時六夕年リョ日四十月二 第一章 世の 集別 お 弦 花 全 典 古 伎 歌 歌 勢 を なみ ねら及の 引て る て 見 に 費 即 で 我 十三 外 年間 を 遊 前 録 別 上 ご れ ら な



田科病院

行發社秋春藝文本

ひ三○六七一京東・藍旗

